

科目コード	8073020	学期・曜日・時限		前期/金曜日/3・4時限		
科目名	有機化学					
科目名英字	Organic Chemistry II	単位数	2	条件	選択	
対象学年	2年次	授業形式	講義	時間	30	
【担当教員名】		【所属名】		【学室番号】		【電話番号】
寺境 光俊		環境応用化学科		IV-322		3074
オフィスアワー【場所】		IV-322		【曜日・時間】	金曜 13:00-14:00	
授業の目的・概要	1) 有機化合物に共通する基本的考え方を学ぶ。 2) 代表的有機化合物について基本的特性と反応について学ぶ。					
達成目標	1. ハロゲン化アルキルの構造と反応について説明できる。 2. アルコール、フェノール、エーテルの構造と反応について説明できる。 3. アルデヒド、ケトンの反応について説明できるようになる。 4. カルボン酸とその誘導体の構造と反応について説明できる。					
学科(プログラム)の学習・教育目標との関係	:(A); :(C)					
参考URL	http://www.eng.akita-u.ac.jp/education/educationalgoals.html					
カリキュラムの位置付け	有機化学Iの後続科目である。また、本講義で取り扱えなかった分野は引き続き有機合成化学で講義される。					
授業の進行予定と授業の進め方	第1回～3回 1. ハロゲン化アルキル 第4回～6回 2. アルコール、フェノール、エーテル 第7回～9回 3. アルデヒドとケトン: 求核付加反応(中間試験) 第10回～12回 4. カルボン酸とその誘導体 第13回～15回 5. カルボニル化合物の置換反応と縮合反応 最終回 最終試験 毎回の授業の最後に演習を実施する(中間試験, 期末試験実施日は除く) 演習と中間試験は返却後, 一週間以内は再提出することができ, 正解となれば加点する。					
授業に関連するキーワード	ハロゲン化アルキル	アルコール・フェノール	アルデヒド・ケトン	カルボン酸		
成績評価の方法と基準	小テスト(毎回24%), 中間試験(30%), 期末試験(46%)で判定する。					
合否の基準	総点で60%以上を合格とする。					
教科書・参考書等	書籍名, 著者, 出版社等					
	教科書: マクマリー 有機化学概説 第6版(東京化学同人)					
	参考書: 有機化学 奥山格 監修(丸善) 参考書: ウォーレン 有機化学 上, 下 (東京化学同人)					
関連URL	http://www.gipc.akita-u.ac.jp/~mjikei/					
メッセージ	有機化学Iと一体をなす科目であり、有機化学の中でも重要なカルボニル化合物の反応を取り扱う。しっかり学習して有機化学の基礎を身に付けてほしい。					
時間割URL	http://www.eng.akita-u.ac.jp/education/schedule.html					